

2023.9.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：10月3日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度
《9月のおはなし会で使った本》

『はい、タッチ』 とよたかずひこ/脚本・絵 童心社 2011.6

『あかまるちゃんとくろまるちゃん』 上野与志/作 チャイルド本社 2009.4

『おばけだじょ』 tupera tupera/さく 学研教育出版 2015.7

『保育で使える！ワクワク手袋シアター』 amico/著 ナツメ社 2017.2

★「秋のスペシャルおはなし会」

○日時：令和5年10月22日（日）10：30～11：15 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：パネルシアターなどによるおはなし会 ○対象：幼児・小学生（3年生以下）の子ども及びその保護者。

○定員：40人（先着順。保護者の人数を含める。） ○申込方法：電子申請・FAX・Eメールなど

○申込締切：10月17日（火） ○参加費：無料

★「第2回学校図書館セミナー」

○日時：令和5年11月9日（木）14：00～16：00（受付13：30～） ○会場：山口県立山口図書館 3階 第2研修室

○講師：講師 青山学院大学 教育学部 准教授 庭井 史絵 氏

○内容：【講義】「『読むこと』の多様性とその支援」

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等

○定員：会場40名（要申込み・先着順） ○申込方法：HP上の参加申込書によりFAX、またはEメール。

○申込締切：令和5年10月26日（木）17時（定員になり次第締め切り） ○参加費：無料

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『しーっ』 たしろちさと/作・絵 フレーベル館 2023.7 ¥800

2羽でおはなししているとりさんたち。そこへうさぎさんがやってきて「しーっ、しずかにしてください」。わけをきいたとりさんたちは、らっぱを吹こうとしているりすさんに「しーっ、しずかにしてください」。りすさんはぶたさんに、ぶたさんはぞうさんたちに「しずかにしてください」。次々つながる「しーっ」のリレー、そのわけはね…。思いやりの連鎖に心温まる絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『ポストがぼつん』 北川チハル/文 小池アミイゴ/絵 アリス館 2023.6 ¥1500

ながいあいだつかわれずおぼろけにまわっていたポストは、あるひ、あらしにあつてうみにおちた。それをみつけたさかなたちが、つむじかぜあてに、こえをふきこんだかみながらのおてがみをだす。ひさびさのおてがみをとどけるため、ポストはかぜのふくほうへおよぎだした。自分で手紙を配達するポストの健気な旅が描かれる。ぼつん・ぼとん・ぼてんといった擬音のリフレインが効果的な絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ぼくのじゃがいも』 ジョシュ・レイシー/作 モモコ・アベ/絵 みやさかひろみ/訳 こぐま社 2023.9 ¥1500

ペットがほしくてたまらないアルバートに、ババのペットだといってプレゼントしてくれたのは、なんとじゃがいも。じょうだんだとおもっていたけれど、いっしょにあそんでみると“おじゃが”はとてもかわいいペットだった。ところがにちようびのあさ、おじゃががいなくなつて…。アルバートのおじゃがへの愛情が意外な展開を生む絵本。見返して描かれる本編の前後の様子も見所。

<絵本-小学校低学年から>

『イヌワシつかいのエルジャン』 イチンノロブ・ガンバートル/文 パーサンズレン・ポロルマー/絵 津田紀子/訳 あかつき教育図書 2023.7 ¥1600

モンゴル最西部に住むカザフ族は、ふるくからイヌワシをつかって狩りをしている。ある夏の日、カザフ族の少年エルジャンは父親と岩山へのぼり、イヌワシのヒナをつかまえてきた。ヒナに「黄色い目」を意味するサルコスというなまえをつけ、1年ほど育てたところから、えものをとるための訓練がはじまる。綿密な取材のもと、伝統的なカザフの人々の暮らしを生き生きと伝える絵本。

<絵本-中学生から>

『ぼく モグラ キツネ 馬 アニメーション・ストーリー』 チャーリー・マッケジー/著 川村元気/訳 飛鳥新社 2023.5 ¥2400

迷子になった「ぼく」が「モグラ」「キツネ」「馬」と出会い、「生きること」について考えるきっかけを得る絵本。世界的ベストセラーであり、2021年に日本語版を出版、2022年12月にアニメ化、第95回アカデミー賞の最優秀短編アニメ賞を受賞した絵本のアニメーション版が絵本となって出版。原作絵本の手描きの優しい線画の雰囲気はそのままに、全ページカラーの絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『ねこねこがっこう』 荻田澄子/作 つちだのぶこ/絵 文溪堂 2023.8 ¥1400

日曜日、幼稚園からの仲良しだったと君とけんかしてしまったゆう君。ひまになったゆう君は飼い猫のにおいを追いかけて、たどり着いたのはゆう君が通うみどりまち小学校。でも学校おねこだらけ。日曜日だけ「ねこねこがっこう」になるとにおいがしゃべってびっくり。ねこたちと授業に参加するゆう君。ねこたちの姿から勇気を出して行動するゆう君の心温まる物語。

<読み物—小学校中学年から>

『じゅげむの夏』 最上一平/作 マメイケダ/絵 佼成出版社 2023.7 ¥1500

保育園からの仲良し4人組アッキーラ、山ちゃん、シューちゃん、かっちちゃん。筋ジストロフィーに侵されているかっちちゃんは「4年生の夏休みを最高の夏休みにしよう」とやりたいことを提案し、3人はその願いを叶えてあげようとする。熊吉つあんの家をのぞいたり、天神橋から川へ飛び込んだり…。友だちを想い、夢を語り合いながら懸命に生きる少年たちのきらめく夏の物語。

<読み物—小学校高学年から>

『アゲイン』 あんずゆき/作 丹下京子/絵 フレーベル館 2023.7 ¥1400

小6のアオイがある日カンナと入った『フードバンク AGAIN』は子どもなら無料で利用できる「子ども食堂」。ゴクヒンだというカンナにピンとこないアオイも、父が経営するカレー店が休業となり、自分の生活に向き合うことに…。フードロスが問題になる一方、親の貧困や育児放棄によって困難を抱える子ども達が増加する社会問題を描く。巻末に貧困や子ども食堂等の解説あり。

<読み物—中学生から>

『教室に並んだ背表紙』 相沢沙呼/著 集英社 2023.6 ¥680

とある中学校の「図書室」を舞台に、人間関係に悩み、自分の価値や未来への不安を抱えた6人の少女たちの心模様を繊細に描いた連作短編集。各章ごとの題名に「背」「しおり」「花布」と本にまつわる言葉を織り込み、一人ひとりを「本」になぞらえ、人生を物語に例えている。若者言葉がふんだんに使われており、同年代の読者にはより身近なのは。単行本は2020年刊行。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『心をひらいて、音をかんじて』 シャノン・ストッカー/文 デヴォン・ホルズワース/絵 中野裕奈/訳 光村教育図書 2023.7 ¥1600

スコットランドで育ったエヴェリン・グレニーは10歳で聴覚を失う。しかし体で感じたことを打楽器で表現できるようになり…。グラミー賞受賞、2012年ロンドンオリンピックの開会式でも演奏した世界的打楽器奏者の半生を描く。障害のある人を描いた児童書におくられる2023年度「シュナイダー・ファミリーブック賞」受賞作。巻末に演奏や話を視聴できる二次元コードあり。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『ぼくは本のお医者さん?』 梁山さくら/文 佼成出版社 2023.6 ¥1400

山形県酒田市で製本会社を経営するかたわら、本を修理する「ブックスドクター」としても活躍する斎藤英世さん。これまで五千冊以上の本を修理し多くの人に喜ばれてきた。本を修理することになったきっかけや思い、若い人に引き継いでほしい願い等を紹介する。本のつくりや修理方法、道具について、イラストや写真での解説あり。学校司書さんにおすすめの一冊。

『読書バリアフリー』 読書工房/編著 国土社 2023.7 ¥3500

様々な立場の人が自分に合った手段を使い、楽しく本を読んだり、情報を得たりするために工夫された本「バリアフリー図書(点字つきさわる絵本、布の絵本など)」について紹介する。レイアウト、文字サイズ、配色などの視覚的な読みやすさ、書かれている内容を理解するための分かりやすさについて解説。全盲、知的障害などの特性を持つ人の読書スタイルを伝えるコラムの掲載あり。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『給食が教えてくれたこと』 松丸奨/著 くもん出版 2023.7 ¥1400

好き嫌いの激しかった少年は、いつしか栄養士になり全国学校給食甲子園で優勝。日本を飛び出し外国で食育授業を行う中で貧困や食品ロスの問題に直面する。食の楽しさや素晴らしさを伝え給食を通して子どもたちの心に寄り添う。「最高においしい」給食を目指す栄養士が、給食への思い、仕事の内容ややりがいを綴る。栄養士はもちろん、子どもの食育に関わる人におすすめの一冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『最強!カレー道 10歳から学べる食の本質』 水野仁輔/文 ホーム社 2023.6 ¥1600

野外学習の調理に選ばれることも多く、学校給食の人気No.1とも言われるカレー。本書では、料理好きなヒロト少年が林間学校で「最強カレー」を作るために奔走する中で、カレーの歴史や栄養はもちろんのこと、カレー店で使う調理器具や経費といったビジネスに至るまで調べつくす。専門的な知識を漫画やイラストを交えて、楽しくわかりやすく解説。巻末にカレー本ガイドを掲載。

『ふせごう!デジタル近視』 北明大洲/監修 旬報社 2023.6 ¥3800

デジタル機器が子どもに身近になったころから増加した子どもの近視。本書では、目の機能や近視になるメカニズム、目の健康の守り方、デジタル機器との付き合い方を、カラーイラストを使って分かりやすく解説。近視だけでなく、目の充血やドライアイ、弱視など、よく聞く目の病気についても説明。監修者は子どもの近視予防や目のケアに対する啓蒙に力を注ぐ日本眼科学会専門医。

<研究書>

『かがくいひろしの世界』 ブロンズ新社 2023.6 ¥2500

特別支援学校の教員を50歳で退職してから、わずか4年間で16作品を書き上げ、この世を去った絵本作家かがくいひろし。本書では、彼の足跡をたどるとともに、教員時代の手作り教材、絵本のアイデアノートなど、遺された作品や習作を公開。未発表の作品も収録されている。「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」(2023年)の公式図録。

『アンパンマン伝説』 やなせたかし/著 フレーベル館 2023.7 ¥2200

1997年発行の同名書籍の新装版で、国民的キャラクターのアンパンマンがどのように生まれ、成長していったかを、生みの親であるやなせたかしが自らの人生を交えて解説。アニメにも継承されているアンパンマンの世界観や、作曲家いずみ・たく氏、漫画家手塚治虫氏や里中満智子氏たちとのエピソードに、貴重な写真やイラスト、自筆のメッセージを多数掲載。巻末に著者年表あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

